

バイオテク産業の「今」

⑥

極荷台湾PABP(屏東農業生物技術園區)入居企業を紹介することで、台湾バイオテク産業の「今」に迫る。6回目は、極荷生物科技公司だ。



王總經理

総経理(社長)の王慧珍氏は、イタリアンレストランをはじめとする外食や宅配サービスのチェーンで名を馳せ、人物で、これらは今でも調な業績を維持している。それら事業で培った客待の技術がバイオテクと合したのが極荷と言える。創業は2002年。様々

な植物から高温蒸留により抽出した有効成分によって、香水やエッセンシャルオイル、茶(ティーバッグ)など、様々な加工品を作りだし、販売する企業だ。この「成分抽出が技術的な売り」だ。「単に抽出だけなら誰でもできるが抽

出条件を把握するのに技術が必要」と王総経理。「当社が必要」と王総経理。「当社

は原料となる植物を知悉し、ア国際發明展(Intex)で「金賞」を受賞した。もともとOEMが主体だったが、近年になってオリジナル商品が増えてき

た。例えば「Natural East on Herb Tea」のブランドで展開する「種のハーブティ。玉蘭シナモン、ショウガ、パイヤなど、地元屏東縣(屏東)は都道府県の意で産出される植物だけを厳選して、エスエチに供給する。

地元屏東縣(屏東)は都道府県の意で産出される植物だけを厳選した7種のハーブティ。それを業態にあわせて販売するが、自らチェーンと王総経理。同じく王総経理が経営する外食チェーンのメニューにも極荷製品が登場する。さらに今年、旅行代理店と提携して、「食事とエステの

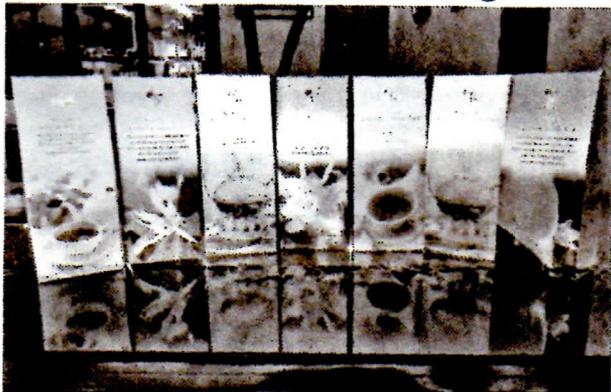
「成分抽出」が技術的な「売り」

極荷

客接待の技術がバイオテクと合致

は原料となる植物を知悉し、ア国際發明展(Intex)で「金賞」を受賞した。もともとOEMが主体だったが、近年になってオリジナル商品が増えてき

た。例えば「Natural East on Herb Tea」のブランドで展開する「種のハーブティ。玉蘭シナモン、ショウガ、パイヤなど、地元屏東縣(屏東)は都道府県の意で産出される植物だけを厳選して、エスエチに供給する。



(岡野)